

1) 感染症総論

病原性微生物

細菌、ウイルス、真菌、リケッチア、クラミジア、原虫、寄生虫など

感染症の発病の要因

①微生物の病原性、②宿主側の感染防御能、③環境要因（衛生環境、ペットなど）

日和見感染

宿主の感染防御機構の低下による 高齢化社会において問題になっている
癌や糖尿病などでは本来は病原性の弱い微生物によっても感染症が起きる

菌交代症

大量の抗菌薬が投与されると、その抗菌薬に感受性のない微生物が増殖して
新たな感染症を引き起こす

院内感染症

病院内で発生した微生物が入院患者などに感染して発病する
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）など

新興・再興感染症

新興感染症：1970 年以降新たに発見（エボラ出血熱、O157、エイズ、SARS、鳥インフル等）

再興感染症：1969 年以前から存在した感染症が再流行（結核、コレラ、デング熱、マラリア等）

感染症法に基づく分類

- 1 類感染症：危険性が極めて高いので、原則入院、対物措置（消毒、建物・通行制限）
エボラ出血熱、ペストなど
- 2 類感染症：危険性が高いので、状況に応じて入院、対物措置（消毒など）
結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、鳥インフル（H5N1）など
- 3 類感染症：集団発生を起こしうるので、特定職種の就業制限、対物措置（消毒）など
コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
- 4 類感染症：動物・飲食物・衣類などを介して感染するので、対物措置（消毒など）
E 型肝炎、A 型肝炎、狂犬病、炭疽、鳥インフルエンザ（H5N1 以外）、
ボツリヌス菌、マラリアなど
- 5 類感染症：厚生労働省令で定めて、発生動向に基づき情報提供して発生・拡大を防止
インフルエンザ、ウイルス性肝炎（E 型・A 型以外）、梅毒、麻疹、
後天性免疫不全症候群（AIDS）、MRSA 感染症など

表1 感染症法による感染症の類型と対象疾患および届出基準（2018年1月時点）

1 類感染症（診断後直ちに届出）
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
2 類感染症（診断後直ちに届出）
急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）
3 類感染症（診断後直ちに届出）
コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
4 類感染症（診断後直ちに届出）
E 型肝炎、ウエストナイル熱、A 型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つづが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ H5N1 および H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱
5 類感染症（侵襲性髄膜炎菌感染症、風しんおよび麻疹は診断後直ちに、その他の感染症は7日以内に届出）
アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E 型肝炎および A 型肝炎を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く）、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘（入院例に限る）、先天性風しん症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、麻疹、薬剤耐性アシネトバクター感染症
5 類感染症（指定を受けた定点医療機関のみ届出）
（小児科定点医療機関、週単位） RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎
（インフルエンザ定点医療機関、週単位） インフルエンザ（鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く）
（眼科定点医療機関、週単位） 急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
（性感染症定点医療機関、月単位） 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
（基幹定点医療機関、週単位） 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎
（基幹定点医療機関、月単位） ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症
（疑似症定点医療機関） 摂氏 38 度以上の発熱および呼吸器症状（明らかな外傷または器質的疾患に起因するものを除く）、発熱および発しんまたは水疱
指定感染症、新感染症（診断後直ちに届出）
該当なし

2)細菌感染症

猩紅熱

原因・疫学：A 群溶血性連鎖球菌

症状・所見：発熱、咽頭痛、舌乳頭の発赤（イチゴ舌）、口囲蒼白、皮疹・発赤など

診断・治療：皮疹、抗ストレプトリジン O 抗体（ASO）が高値、抗菌薬投与

ジフテリア

原因・疫学：ジフテリア菌だが、3 種混合ワクチン接種で減少した

症状・所見：扁桃が発赤腫脹して灰褐色で汚い偽膜を形成、心筋障害・神経障害など

診断・治療：咽喉頭の偽膜、抗菌薬投与

破傷風

原因・疫学：破傷風菌により中枢神経を傷害するが、3 種混合ワクチン接種で減少

症状・所見：項部硬直、四肢反射亢進、牙関緊急、後弓反張、音や光で筋痙攣など

診断・治療：傷の既往と筋痙攣、破傷風免疫グロブリンと抗菌薬投与

ブドウ球菌感染症（MRSA 含む）

原因・疫学：黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌などで、院内感染として社会的に問題

症状・所見：化膿・蜂巣炎、毒素性ショック、敗血症など

診断・治療：ペニシリン系などの抗菌薬、MRSA にはバンコマイシン

細菌性食中毒

型別・原因菌	潜伏期間	症状の特徴	その他
<u>毒素型</u>			
黄色ブドウ球菌	2～4 時間	悪心嘔吐	耐熱性エンテロトキシン
ボツリヌス菌	18 時間前後	弛緩性麻痺※（眼・球麻痺・分泌）	神経毒
<u>感染侵入型</u>			
サルモネラ	6～48 時間	血便、水様便、発熱	
腸炎ビブリオ	10～20 時間	水様便、腹痛、悪心嘔吐	
<u>感染毒素型</u>			
腸管病源性大腸菌（ベロ毒素産生性）	3～5 日	血便、腹痛	小児、高齢者

※ボツリヌス中毒では、眼症状（視力低下・複視・眼瞼下垂・瞳孔散大など）

球麻痺症状（発語障害、嚥下障害、呼吸困難など）

分泌障害（唾液、涙、汗など）

3)ウイルス感染症

インフルエンザ

原因・疫学：インフルエンザウイルス A、B、C、伝播力が強く冬季に大流行

症状・所見：高熱、頭痛、腰痛、筋肉・関節痛など

診断・治療：診断キットで迅速な検査が可能、抗インフルエンザウイルス剤投与
麻疹（はしか）

原因・疫学：麻疹ウイルス、5 類感染症に指定されている、乳幼児期に多い

症状・所見：潜伏期が長い（10～12 日）、発熱、咳、鼻汁、結膜炎など

口腔頬粘膜に周囲が赤い小さな斑点（コプリック斑）

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

原因・疫学：ムンプスウイルス、5 類感染症にしていされている、学童期に多い

症状・所見：発熱、耳下腺腫脹、時に髄膜炎・睇炎・精巣炎（睪丸炎）など

診断・治療：有痛性の耳下腺腫脹、血清アミラーゼ上昇など

水痘・帯状疱疹

原因・疫学：水痘・帯状疱疹ウイルス、飛沫や直接接触によって感染

症状・所見：水痘は皮疹（丘疹→水疱→膿疱→痂皮）

帯状疱疹は神経の走行に一致した帯状の水疱

診断・治療：VZV 特異抗体検査、抗ウイルス薬（アシクロビルなど）投与

4)性感染症(STD)

梅毒

原因・疫学：梅毒トレポネーマ、5 類感染症に指定、母体内で感染する先天性梅毒も

症状・所見：軟性下疳（丘疹が潰瘍に）、無痛性横痃（所属リンパ節腫脹）、バラ疹、

丘疹性梅毒疹、扁平コンジローム、ゴム腫、神経梅毒、脊髄癆など

診断・治療：ワッセルマン反応、TPHA 法など、ペニシリン系抗菌薬投与

性器クラミジア感染症

原因・疫学：クラミジア・トラコマチス感染、5 類感染症に指定されている

非淋菌性尿道炎の原因として最も多い

症状・所見：頻尿、排尿痛、膿性分泌物など

診断・治療：抗菌薬投与

エイズ（AIDS、後天性免疫不全症候群）

原因・疫学：ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染、5 類感染症に指定されている

HIV 感染者との性交渉、血液製剤の輸注、HIV 感染者の妊娠・出産で

症状・所見：リンパ節腫脹、日和見感染（ニューモシス肺炎など）、カポジ肉腫など

第 29 回 (2021)

問題 5 2019 年の食中毒統計において食中毒の発生件数が最も多いのはどれか。

1. 家 庭
2. 学 校
3. 病 院
4. 飲食店

問題 6 皮膚の消毒に用いないのはどれか。

1. アルコール類
2. 塩素系消毒剤
3. ビグアナイド系消毒剤
4. ヨウ素系消毒剤

問題 10 空気感染対策が有効なのはどれか。

1. 赤 痢
2. コレラ
3. 結 核
4. ポリオ

問題 37 日和見感染症はどれか。

1. 強毒菌感染症
2. 常在菌感染症
3. 新興感染症
4. 伝染性感染症

問題 44 季節性インフルエンザウイルス感染症の特徴で正しいのはどれか。

1. 膿性痰を認める。
2. 潜伏期は 1 週間前後である。
3. 感染経路は飛沫感染である。
4. ワクチンで感染を防ぐことができる。

問題 65 院内感染と関連が深いのはどれか。

1. 破傷風菌
2. MRSA
3. 肺炎球菌

4. ボツリヌス菌

問題 66 細菌感染症はどれか。

1. 带状疱疹
2. 流行性角結膜炎
3. 百日咳
4. 手足口病

問題 67 感染症について正しいのはどれか。

1. 風疹は「三日ばしか」と言われる。
2. 日本脳炎はネズミの媒介によって感染する。
3. 水痘は精巣炎を合併しやすい。
4. 流行性耳下腺炎は空気感染する。

問題 68 ウイルス性肝炎で生の貝類の摂取により最も感染しやすいのはどれか。

1. A型
2. B型
3. C型
4. E型

第 28 回 (2020)

問題 10 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に定められた感染症で致死率が最も高いのはどれか。

1. エボラ出血熱
2. 中東呼吸器症候群（MERS）
3. 腸管出血性大腸菌感染症
4. デング熱

問題 41 化膿性炎症の起炎菌として最も適切なのはどれか。

1. 結核菌
2. ブドウ球菌
3. ジフテリア菌
4. コレラ菌

問題 57 白血球についてウイルスが原因で日本の西南地方に多いのはどれか。

1. 成人 T 細胞白血病
2. 慢性骨髄性白血病
3. 急性骨髄性白血病
4. 急性リンパ性白血病

問題 68 帯状疱疹について正しいのはどれか。

1. 抗ウイルス薬が有効である。
2. 発疹は両下肢に好発する。
3. コプリック斑が出現する。
4. 小児期に発症する。

問題 69 潜伏期間が最も長いのはどれか。

1. 流行性耳下腺炎
2. エイズ
3. ジフテリア
4. 破傷風

問題 71 ウイルス性肝炎と感染経路の組合せで正しいのはどれか。

1. A 型 ――― 血液への暴露
2. B 型 ――― 性行為
3. C 型 ――― 獣肉摂取
4. E 型 ――― 生鮮魚介類摂取

次の文で示す症例について問題 75、問題 76 の問いに答えよ。

「35 歳の女性看護師。皮膚の黄染、全身倦怠感にて受診。針刺しの既往がある。肝炎ウイルスマーカーでは、HCV 抗体陽性、HCV-RNA 陽性で、他は陰性であった。」

問題 75 本疾患について正しいのはどれか。

1. 生ガキの摂取で起こる。
2. 慢性化の頻度が高い。
3. 劇症肝炎へ進展しやすい。
4. ワクチン予防が可能である。

問題 75 本疾患に合併する悪性腫瘍で上昇する腫瘍マーカーはどれか。

1. CA125

2. SCC
3. CEA
4. AFP

第 27 回 (2019)

問題 10 再興感染症はどれか。

1. SARS
2. エボラ出血熱
3. ウエストナイル熱
4. 結核

問題 56 ラムゼイハント症候群の治療薬はどれか。

1. 免疫抑制薬
2. 抗菌薬
3. 抗ウイルス薬
4. 非ステロイド性抗炎症薬

問題 67 アデノウイルス感染症はどれか。

1. 伝染性単核症
2. 流行性角結膜炎
3. 手足口病
4. 突発性発疹

問題 69 感染症について正しいのはどれか。

1. ムンプスウイルスは空気感染する。
2. MRSA は院内感染の原因となる。
3. ボツリヌス菌による食中毒の主たる症状は血便である。
4. 風疹は精巣炎を合併する。

問題 71 肝炎の感染経路で正しいのはどれか。

1. A 型肝炎は血液で感染する。
2. B 型肝炎は性行為で感染する。
3. C 型肝炎は生鮮魚介類の摂取で感染する。
4. E 型肝炎は母子感染する

第26回(2018)

問題 8 アニサキス症の主症状はどれか。

1. 発熱
2. 腹痛
3. 下痢
4. 血尿

問題 10 リケッチア感染症はどれか。

1. 梅毒
2. デング熱
3. ジフテリア
4. ツツガムシ病

問題 38 潜伏期間が最も長いのはどれか。

1. 風疹
2. エイズ
3. A型肝炎
4. インフルエンザ

問題 43 ヒト免疫不全ウイルスが主に感染する免疫担当細胞はどれか。

1. B細胞
2. ヘルパーT細胞
3. 細胞障害性T細胞
4. NK細胞

問題 65 感染症について正しいのはどれか。

1. インフルエンザウイルス感染は迅速な検査が可能である。
2. 麻疹は「三日ばしか」と言われている。
3. 带状疱疹は単純ヘルペスウイルスによる感染である。
4. 梅毒はクラミジアによる感染である。

問題 66 呼吸器感染症について正しいのはどれか。

1. 上気道炎の治療は主に抗菌薬である。

2. 65 歳以上の高齢者には肺炎球菌ワクチンが推奨されている。
3. インターフェロン γ 遊離試験は非結核性抗酸菌症で陽性となる。
4. 日本の結核患者数は先進国の中では少ない。

第 25 回 (2017)

問題 8 地球上から根絶された感染症はどれか。

1. コレラ
2. 破傷風
3. 痘そう
4. ポリオ

問題 9 予防接種に生ワクチンを使用するのはどれか。

1. 麻疹
2. 百日咳
3. 日本脳炎
4. 肺炎球菌

問題 39 病原体が最も大きいのはどれか。

1. 梅毒
2. エボラ出血熱
3. アニサキス症
4. クリプトコッカス症

問題 65 肺抗酸菌症について正しいのはどれか。

1. 結核患者は届け出る必要はない。
2. 咳が 4 週間以上持続している場合は肺結核を考慮する。
3. 抗結核薬は 1 剤を投与する。
4. 非結核性抗酸菌症も結核と同様に隔離する必要がある。

問題 80 ヘリコバクター・ピロリの検査はどれか。

1. 尿素呼気検査
2. 胃液測定
3. 尿沈渣検査
4. 血清ペプシノーゲン測定

COVID-19 模擬問題

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について正しいのはどれか

1. 病原体は SARS-CoV-1 である
2. 確定診断の方法として抗体検査がある
3. 次亜塩素酸水の空中噴霧による感染防止が推奨されている
4. 肥満は重症化のリスク因子である

新型コロナウイルス感染拡大防止策として適切でないのはどれか。

1. 次亜塩素酸水の空中噴霧
2. 0.05%次亜塩素酸ナトリウムによる高頻度接触環境表面の清拭
3. 石けんと流水で手洗い
4. 70～95%エタノールで擦式手指消毒

日常生活における新型コロナウイルス感染予防として最も有効な飛沫飛散防止法はどれか。

1. ウレタンマスク
2. 布マスク
3. 不織布マスク
4. フェイスガードおよびマウスガード

